

「家がいいね」 第260号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2026.1.5



新年の夜も更けて来た今人通りは昼ほどではないがそれでも絶えることはない神宮の神は願いは聞かない誓いや決意だけが魂で届く静かな時がその助けになる

お前は誰とどう生きるのか
何をしようと生きるのか
自分のしたことを引受ける
覚悟は確かなと聴かれた

ヒトサマは、ウマく行くことばかり考えるが

千支で言う午（うま）年であるので、年賀状に馬の絵や諺が用いられる。馬は権力の象徴、千軍万馬、天馬空を行く、馬が合う、生き馬の目を抜く、などと勢いある言葉の反面、馬にしたらない状況も説明される。馬車馬のように働く、馬の耳に念仏、馬脚を露す、馬齢を重ねる、人を射んとせばまず馬を射よ。「どこの馬の骨？」と人間侮蔑として使われる。ひどいものではないか。人間（じんかん）万事塞翁が馬は、禍福は糾（あやな）える縄の如しと同義語。塞翁は占い人、慶事にも喜ばず、災難に氣落ちせず、他人の評価を越えた人生の継続と悲哀を、息子と共に経験したわけである。人生は一時ではなく氣長に考えようと思う。

生まれた自分は生きるに価（あたい）する

昭和も通算すると百年。悲惨な戦争を体験した世代が消え「新しい戦前」の雰囲気は濃くなった。基本的な人権とは、生まれながらの生命と同様に、無条件の権利で、題字の意味そのものだ。しかし今の総理以下、国権をその上に置こうと画策しています。義務を果たさない人に人権は無いと言う大臣さえ居ます。差別の考えすら思い浮かばない感じですが、他者への理解や寛容は遠い事でしょう。力が支配する極限は戦争です。他国に攻め込むのを軍事作戦と言うのは、力に奢る者だけです。昭和百年の間に、日本は沢山の標語を作り、沢山の人を死なしめて来た。国権ファーストは嫌だ。

移転計画がスタート その4

百五銀行（旧新道支店）1階は、徐々に改修中です。新しいクリニックとするため、名称も下記のように変更します。

医療法人あゆみ会は、18年継続。途中で、縁（えにし）の家を併設。今回、いせ在宅クリニックとあえて医療を標榜しないのは、人生の最期まで支援するのは、医療以上のものが大事と認識するからです。街の縁を、再構成するために努力します。

ホームホスピスあこやをもう一度 伊勢に！

8年前に伊勢に誕生した「あこや」が昨年7月に突然閉じられた。転居した翌日に1名、一カ月後に1名と逝去。あこやで命をつないでいたことが分かった。

もう一つの家。施設に無いものを持つ場所。手放した貴重なものを思い出すために京都へ。

休診のお願い

2月21日（土）
臨時休診します

1月28日（水）
2月25日（水）
3月25日（水）
毎月第4水曜日は、
緩和ケアチームの
研修で休診の予定。



2026年2月21日(土) 12:30~15:40



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tep-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可

